



## 着任のご挨拶

和歌山税務署長

奥 光 明



近畿税理士会和歌山支部の諸先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また平素から税務行政全般にわたり、深いご理解をいただくとともに、多大のご支援ご協力を賜っており心より感謝申し上げます。

和歌山税務署は、今回で三度目の勤務になりますが、風光明媚にして豊かな歴史と伝統文化にあふれたご当地に、また縁があり勤務できることを大変光栄に思っております。

ところで、税務行政を取り巻く経済社会の状況は、国際化・広域化・高度情報化の進展により、大きく変わりつつあります。とりわけ、高度情報化への対応としましては、現在、電子政府の実現に向けたいろいろな施策が講じられているところでありますが、税務行政の分野におきましても、情報通信技術の成果を納税者利便の向上や事務運営の高度化・効率化に活用すべく、KSK（国税総合管理）システムが、昨年十一月に全国導入が完了し、現在はKSKシステムの特性を最大限引き出すよう努力しているところであります。

また、制度面におきましては、あるべき税制の構築に向けた本格的な議論が進められており、国民の皆様への税に対する関心はますます高まっています。

このような状況にあつて、税務行政の運営に

当たりましては、我が国の税制の大きな柱であります申告納税制度が円滑に機能するよう、税務行政が的確に環境の変化に対応し、適正・公平な課税を実現して、国民の皆様のご理解と信頼を得ることがますます重要であると考えております。

しかしながら、このことは、私どもの力だけでは、到底成し得るものではなく、従前より、税制及び税務行政のよき理解者として税務知識の普及、納税道義の高揚及び適正申告の推進等に積極的に取り組んでいただいている近畿税理士会和歌山支部の税理士先生方のご協力が是非とも必要であります。

今後とも、貴支部との連携を密にし、ご意見を十分承りながら、税務行政の円滑な運営と執行に努めてまいりたいと思っておりますので、なお、一層のご支援とご協力をよろしく願います。

最後になりましたが、近畿税理士会和歌山支部の益々のご発展と会員の諸先生方のご事業のご繁栄、並びにご健勝を心から祈念いたしまして、着任のあいさつとさせていただきます。

## こんぴら夢紀行

川口 美由紀

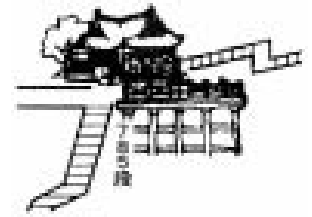
先生方とご一緒する、はじめての泊りがけのレクリエーションで有意義に過ごせたら、と感じて親睦旅行に申し込みました。倉敷は2度目という先生が多いなか今年の旅のメインは、やはり「こんぴらさん」かな…。海上安全を主として様々な願いを叶えてくれる大物主大神と、保元の乱で讃岐の国に流された後この地で亡くなった崇徳上皇とが祀られているとのこと。はたして、どんなところなのかと期待しながらバスに乗った。

バスの中ではお決まりのゲームはなかったものの、可愛らしく茶目っ気たっぷりのガイドさんが車内を華やいだものにしてくれた。山陽道を通って倉敷へ。昼食を済ませ、まず大原美術館を鑑賞する。ギリシャ風の建物をくぐると、そこはもう名画の世界。エル・グレコを代表とする数々の作品が館内を埋めつくす。そのあとは美観地区巡り。白壁の土蔵と柳の下を人力車が走り、人の往来も盛んだ。いぐさ製品が置かれた民芸調の店があるかと思えば、アクセサリが並ぶ露店もあって、上品で魅力的な街を創りだしていた。瀬戸大橋の途中、与島で降りる。ここでは眩しいくらいの日差しを浴びて全員で記念撮影。四国に入ると、ようやく今夜の宿「こんぴら温泉紅梅亭」に着いた。抹茶と和菓子で温かく迎えていただいたのでホッと安心した。待ちに待った夕食に入る前に讃岐うどんの手打ち体験。希望者を募る声に、支部旅行毎回参加のお馴染みのK先生と初参加の女性のK先生が率先して手を挙げられた。K先生はユーモアを交えながら麺棒でうどんの生地を延ばし、その生地に女性のK先生が包丁を入れるのであるが、お囃子に遅れがちになる。お二人のおかげで場は



パツと明るくなった。さてお味のほうはどうだったのでしょうか？一時間も経たぬうちから

カラオケタイム。先生方が代わる代わる歌われるそばで厚生部のG先生とK先生が踊りを披露され、宴会は最高



潮に達した。2日目。朝5時半に起床しK先生と共に金毘羅宮詣でに出発する。私達が1番バッテリーと自信をもっていたが既に登っておられた先生に何人も出会い少々ガッカリした。フーフー息を凝らしながら階段を何段も上る。やっとのことで本宮に辿りつき願い事をする。展望台に立てば、朝もやに包まれた琴平の町が浮かび、かなたには讃岐富士こと飯ノ山が、うっすらと稜線を描いている。こんな情景に接すると、それまでの疲れをつい忘れてしまう。朝食後、宿泊先を出て向かった場所は中津万象園。近江八景を模したという壮大な庭園をそぞろ歩きすれば、所どころ紫陽花が顔を出し、爽やかな水無月の季節に彩りを添えていた。併設された丸亀美術館は、ミレーを中心としたバビロン派の絵画館、古代オリエント地域の出土品を集めた陶器館、そして古の雛人形を展示した「ひいな館」で構成され、訪れる者を飽きさせない配慮があった。引田町にて昼食、大鳴門橋を通過し、淡路SAハイウェイオアシスに。広々とした店内には瀬戸内のお土産が揃い、ゆっくりと楽しみながら選ぶことができた。あとは帰路を目指すのみ。バスの車内で突然「やすきよ」の漫才が放映されると、どの先生も笑いが絶えなかった。添乗員のお兄さんから一人一人に紙の旗が渡される。「近畿税理士会和歌山支部御一行様」と書かれた宿特製のものであり、どこかで見覚えがあると思ったら、昨日の晩御飯のお造りの樽に飾られたものだった。旅の思い出が一つ増えたということに皆、満足顔をされていた。こうして定刻の約1時間前、午後6時頃スタート地点の税理士会館前に無事に到着したのである。

今回、思いもよらず原稿の依頼を受けペンを執った次第です。この旅行を通じて沢山の先生と交流させていただき本当に有難うございました。これからも宜しくお願いいたします。

## 租税教室を体験して

南方 江里子

川口先生から租税教室の話を代わって頂いてから、どのような話をしようかと考えていました。最初に考えたのが、政治・経済・公民に関わる租税でしたが、内容が纏らず結局は税務署にあるパンフレットを基に話をしようと思っていました。

それっきり何も用意をしない私に痺れを切らした主人は、資料として小中学校の租税教室をインターネットから引き出してくれました。これでバッチリ！！全部載っていました。あとは、人前で喋るだけ！私にはかなり苦手なことです、主人に煽てられてその気になっていました。

1月16日、水城先生の事務所にて、石倉先生、小西先生、水城先生とともに打ち合せをさせていただきました。先生方は、お忙しい中真剣な取り組みをされているのにビックリ。速水先生の資料を拝見させて頂いて2度ビックリしました。その時に、小西先生が受けて来られた研修の内容から、租税には歴史についての話もあること、黒板、模造紙などを使用すること、クイズ形式なものなどで生徒とのコミュニケーションを計るなどの指導を受けました。

後日、速水先生からお借りしたビデオを見せて頂き、話の内容がみな税理士として充実したものばかりと感じました。しかし、私のことを考えると何分話が堅くなりがち、まして話し慣れないので話が続くかどうか心配になりました。そこで、手間と経費は掛かるけども指導にあった模造紙等を使用して彩りを加えることにしました。

授業で私が言いたかったことは、税金は社会生活のために有益に役立っていること、そこに国民の意思があること、だから納税の義務があり、そこに税理士が携わっている事でした。税金の種類や分類は、もちろんでしたが、その用途や決定までの過程のも言及したかったのですが…。

言葉の選択にも、一応気を配ったつもりです。平易でわかりやすく、自分の思想や感情的な部分

はできるだけ省き、誘導的なものにならるようにし、事実の説明や問題提起をするように努めました。こんな風に思ったことを書いていると内容も凄そうに思えてきましたが、インターネットの資料の範囲内です。気持ちは、ということで…

あとは、喋るだけ。主人に聴いてもらいながら自分の気持ちが白けない様に練習しましたが、やっぱり緊張しました。原稿の内容をだいたい飛ばしたり、付け加えたり終わったら1時間に10分足らず、質問とアンケートで10分取りました。

やっと、終わってホッとしたところで、担任の先生の挨拶を頂きました。

「きょうは、政治のお話しを有難う御座いました。」…！

## 湖北の旅

片山 明

東海道線の米原駅のあたりから北、琵琶湖の東北岸一帯を湖北と呼ぶ。東に伊吹山を主峰とする山なみがつづく南北およそ二十数キロの地点で、水清く、大気澄む清浄の地である。

ただし、冬は雪深く、一帯は銀世界となる。

六十年来の親友T君が長い大阪での生活を終え、故郷湖北の高月町に帰った。

招かれて友人とこの地を訪れた。この地は穀倉地帯で、豪農の大きな家屋が多い。そして、家々の横の溝（小川）には清冽な水が滔滔と流れる。伊吹の雪解け水が伏流水となってこの地を潤しているのだろうか。

さて、この地は観音のふるさとである。私は迂闊にもその知識がなく、訪れて初めてこの事を知った。湖北は観音のふるさととも呼ばれ、観音をまつる寺は六十三ヶ寺に及び、数ある国宝十一面観音中の最高の傑作と言われる、渡岸寺の十一面観音をはじめ、重要文化財を含む観音が百体以上もあるとの事。

歴史的にも極めて重要な地域である事を、寺々を見てなるほどと認識した。

ところで、琵琶湖の湖東、湖南は気候も穏やかであるが、湖北は雪深く比良山系から吹き降ろす風は湖上を騒がせ、風雪厳しいこの地に、どうして仏教文化の芳流が深く根を下ろしたのであろうか。

そこでこの地の文化を少し探ってみた。湖北には式内社の数が極めて多い。式内社とは「延喜式」神名帳に記載されている（元慶八七七～八八五）ごろまで、官幣もしくは国幣になっていた古い神社のことである。湖北を形成している坂田郡、浅井郡、伊香郡にはそれぞれ五座、十四座、四十六座をかぞえる。特に渡岸寺を含む、伊香郡の多さは大和の高市郡に匹敵するとの事。そう言えば、T君の近所にも古く美しい神社があり、見事な巨樹が聳えていた。このような信仰の拠点に恵まれた大地の上に、仏教が新しい信仰の対象として土地の人々はこれを受け入れ、このような仏教信仰の一大センターとなったのであろう。

これは後で調べてわかった事。T君に案内されて渡岸寺を始め、石道寺、鶏足寺その他の寺を巡って、まつられている観音を拝観した。いずれも観音像彫刻の極致の様なすばらしさである。慈愛あふれる尊容や、中には珍しい忿怒相の馬頭観音等もあり、その美に堪能した。

無論、ごく一部しか拝観出来なかったが、大きな美術館等でみるのと違い、すぐそばでまた後方に回ってみることが出来、十一面観音の背面、暴悪大笑面まで間近で見ることが出来たのは初めての事であった。

さて、その夜の宿は木ノ本の想古亭である。ここは琵琶湖で獲れる魚介類のみを食材とする田舎の小さな料亭であるが、かなり名の知れた老舗である。豪華な旅館ではなく、他の二人にはいささか気の毒かとも思ったが、私のたつての希望でここに於て貰った。和歌山の私等には新鮮な魚料理には少々食傷しているので、大いに満足した。

そして楽しい小宴、静かな田舎の宿の夜、老齡の三人それぞれの人生の黄昏を感じてはいる

ものの、皆矍鑠として居り“来年はどこにしようか”等と言って、一向に老残の気配は感じられない。S君に至っては“大正生まれ”と題する詩を作り、困難な時代を生き抜いてきた気概、気力、体力を謳歌して意気軒昂。

もうひとつ忘れられぬ出来事があった。

三人が湖南長浜を経て木ノ本駅で待ち合わせる約束で、T君から詳しく道順を指示されていたにも拘わらず、大阪で電車を間違えて湖西線に乗ってしまい、着いた所が正反対の湖北永原駅。田舎の駅との事とて次の電車を待てば一時間後、タクシー等も見当たらず、困り果てて通りかかった真面目そうな若い人に訪ねてみた。彼は私の話を詳しく聞いてくれ、いろいろ考えていたが、“ちょっとここで待っていて下さい”と言って去って行った。

しばらくすると、自動車でやってきて“乗ってください。木ノ本までお送りします”と言う。半信半疑で乗り込んだ私を、約三十分かけて木ノ本駅まで送ってくれた。この青年の親切に驚くとともに、旅に出てこんな親切な青年に出会い、嬉しくて感謝の言葉も無い程であった。

夜、この話をすると二人は私の電車の乗り間違いを嘲笑しながら、その親切を称え合った。真に楽しく旨い酒であった。

## 好きでない勉強と共にして

福井 眞 八

変な表現だが、自分の顔は鏡を見ないと分からない。いつもそれを意識していると、生きる事が厭になる。八十歳近くなれば真面目にそう考えるように容貌がなるのだから、人生は長くもあり又短いものだと思う。私の場合、社会的に落伍者又は敗者とならぬ様頑張り続けて来た事が即ち人生だったと結論する。言い換えると生き抜くために費やしてしまった闘争のための人生と言えよう。歴史上有名な人は、大抵生涯一貫して我が身の存在、進展、安泰のための一生であった。小さい存



在の私さえ同じよう、保身のため、この年になってしまったが、それを気付かずに終わってしまったと考え得る。

人生は小学生から希望校へ合格という闘争のスタートを切っている。中等学校（現高校）へのハードルは普通なれば合格出来る低い水準であるが、次の高専（大学）に対する合格率は全般に七、八倍が平均値になる凄く狭き門になる。

人並み以上に受験勉強と在学中の定期試験にと励んだつもりだったが、その結果は期待はずれの程遠い三流大学にしか合格出来なかった。

碌に勉強せずに受験していたのに同じ合格者である事に不満を抱きながら通学したのであるが、同じ学級に私と同じ考えの在学生在がいたのを分かって来たが、敗戦という渦巻<sup>うずま</sup>きはそんな不満どころか国全体の組織が埋没してしまった。

戦後荒廃の 때가 過ぎると全部蒔き直し、私も国家公務員試験を受ける境遇になり、大して期待もかけなかったが合格、続いて難関と言われた倍率の高い羨望の試験に同勤者の内で私のみが合格、大学入試の不運を思うと信じ難い状態だったが、三流大学の同学友も合格しているのに、戦後になってやっと幸運に廻り逢えたのだと思った。同学友も私と同様猛勉強したが、期待はずれの学生に辛抱の甲斐があったのだと、世の中は努力した効果はいつか報われる。

受験勉強に取り組む事は、只テキスト及び関連参考書を机に開いてその内容を理解し、時には暗記、又は計算して自分の脳に刻み込む行為を反覆して前進、知識を吸収する。別に至難なる事ではなく、誰もが体験するが毎日長時間これに集中するのは自分に対する闘いである。一切の雑念を捨て、没我の境地に入ってから問題に対峙する。だが、これを長く実行するのは心の苦痛が生じて来る。試験出題の範囲は広大で、その見当が付きにくい。それを片っぱしから絨緞的に把握するのは量的に無限のよう。然し、これを確実に実践しないと基本的に理解出来たとは断言出来ず、心の安らぎを獲得出来ない。

「努力無くして王道なし」この言葉をどれだけ

唱えたか、効果を上げる為無理に安易な手段を考えないこと。勉強は初心者<sup>初心者</sup>の気持ちからとび込んで昔の古傷のような失敗を心の中から捨て去る事、私は劣等生から出発して学校の期末試験、大学の入試、公務員試験から国家試験へと相当長年月に亘って机に向かったの勉強をやったものだ。時には徹夜も度々で、馴染みが深い。

元々勉強は好きではない。境遇上勉強しなければ落伍者になる立場へと追い込まれる。そんな不安がいつも心の隅に付き纏っている。

これが勉強をするため机に向かって本を開いて、それに打ち込む事により安堵感を得る。

言い換えると、まずいものでもこれを食わねば餓死するから止むを得ず食う。私の場合、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」のように、勉強するという糸に縋らなければ奈落の底へ転落する気持ちに追い立てられた。これがいつか習性となり向学心も湧くようになって来た。

思い返せば戦時中は学校へ合格せねば徴用令で軍需工場へ職工として重労働が待っている。戦後は就職難で公務員試験から国家試験の狭き門を通り抜けてこそ、現在の業務を継続出来得る。実際背後から社会の敗北者の烙印を押されたくないばかりに好きでない勉強をせねばならぬ立場に追い込まれた。人生の半分以上を受験勉強に費やしたから現在も現役で就業出来ると思うと苦労は無駄で無かったと納得している。

## 合成抵抗

岡本繁男

太陽系は電気の体系であると私は考えている。ここではオームの法則（電圧＝電流×抵抗）のうち抵抗について、電気と太陽系の関係について考えることにする。

太陽は電源であって惑星は電力の消費者（合成抵抗）である。惑星は地球型惑星5個と木星型惑星5個の合計10個である。惑星は太陽に近い順番に水星、金星、地球、火星、月（月は元太陽系第5

番目の惑星であった)木星、土星、天王星、海王星および冥王星の10個である。水星から月までが地球型惑星、木星から冥王星までが木星型惑星である。

地球型惑星は小さく固体であり、木星型惑星は大きく気体である。この相違は地球型惑星は電気の並列合成抵抗であって、木星型惑星は直列合成抵抗であることによる。並列合成抵抗は小さくなり、直列合成抵抗は大きくなる性質がある。太陽

に近い地球型惑星は並列合成抵抗となり、太陽から遠い木星型惑星は直列合成抵抗になる。その訳は次の会合周期に見ることが出来る。

会合周期は太陽と地球と惑星が一線になることである。地球型惑星の会合周期を見ると水星116日、金星584日、火星780日と大きく違っている。これに対して木星型惑星は木星399日、土星378日、天王星370日、海王星366日、冥王星368日で地球の一年365日の近似値になっている。

## 支部行事風景



支部親睦旅行(平成14年6月9日~10日)



第22回支部定期総会(平成14年5月17日)



第22回支部定期総会懇親会(平成14年5月17日)



確定申告地区相談



小学生を対象とした租税教室

## 新入会員等紹介 (敬称略)

### 入 会



ニシカワ タクヤ  
西川 卓也  
平成14年2月19日  
和歌山市有本535-3  
西川宏事務所内



ヤマグチ トモミ  
山口 智己  
平成14年3月25日  
和歌山市永穂399



オクノ タカコ  
奥野 貴子  
平成14年3月25日  
和歌山市新在家145-3

### 転 入



マエダ ナオキ  
前田 直樹 (堺支部より)  
平成14年8月6日  
和歌山市作事丁5-1

### 退 会

津田 和夫 (死亡) 平成14年2月6日  
享年72歳

田中 角衛 (死亡) 平成14年4月24日  
享年74歳



## 結♥婚 しました

山田 賢・円香  
平成14年6月8日

## 会員報告

会員数 平成14年9月1日現在 235名

### ◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆

夕ぐれの涼風はさすがに秋の近いのを肌を感じさせますが、今年6月にはサッカー・ワールドカップで日本列島が沸き、夏に入ると各地で38度39度を記録するといった猛暑となりました。これも地球温暖化の影響かヒート・アイランドというものか、取り分け都市部の気温が異常であったようです。

異常といえば、7月31日に幕を閉じた「通常国会」は秘書給与疑惑問題等々で多くの議員が辞職したり、逮捕者まで出した迷走国会でありましたが、政界は秋の訪れとともに内閣改造に向けて動き出すことでしょう。

我が業界では、4月1日から施行された新税理士法により、都会を中心に税理士法人が次々と設立されており、会の様子も徐々に代わりつつあるようです。

さて、「五十五万石」第14号を発刊するに当たって、今回も多くの方々からご投稿いただきありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

まだまだ日中の暑さは続くかと思いますが、どうか夏の疲れを癒し、ご健勝で在らせられますことを祈念いたします。

広報委員 山本 九鬼 竹田